

岩国国際連帯集会 基調

朝鮮半島平和に向かう今、岩国米軍基地は全面的に撤去されるべき！ 駐韓米軍・在日米軍をはじめ米軍をアジアから総撤収させよう！

4月南北首脳会談・6月朝米首脳会談により朝鮮戦争終戦と平和協定締結に向かう流れが始まっています。振り返れば、ここ岩国米軍基地はまさに朝鮮戦争のために拡張・強化された基地でした。岩国米軍基地の公式ホームページにはその過程が、次のように生々しく記載されています。

『1950年、朝鮮戦争が勃発すると、国連軍（オーストラリア海軍と米空軍）が岩国に派遣されます。朝鮮で前線に立つ部隊を支援するため、岩国基地からは航空機が毎日発進し、給油と再軍備のために毎晩帰還しました。当時、岩国基地に部隊指揮所があったため、岩国基地は「朝鮮への玄関口」と呼ばれていました。1952年4月1日、岩国基地は米空軍基地となります。その間、米空軍は岩国基地内の大規模な施設改修を行いました。1954年10月1日、岩国基地は米海軍基地となります。1956年7月、第一海兵航空団（1st MAW）の司令部が朝鮮から岩国基地へ移駐され、約2,500名の海兵隊員を受け入れるために基地の北側が大幅に拡充されました。（後略）』

この過程は基地周辺住民や女性への殺人事件など無数の米軍犯罪・事故・騒音の歴史でもありません。それは過去の話ではありません。今年朝米対話の進展の中で韓米合同軍事演習は一時中断されていますが、昨年までは岩国基地は朝鮮半島で行われる史上最大規模の米韓合同野戦演習フォーオールイーグルの出撃基地となってきました。朝鮮戦争を口実に日本に駐屯し、連日の朝鮮への攻撃の指揮所として拡張・強化され続けてきた「朝鮮への玄関口」＝岩国米軍基地は今や全面的に撤収すべき時です。

時代に逆行し、東アジア最大となった岩国米軍基地！ 盆も正月もない戦闘機爆音！ その上着艦訓練まで！？被害住民の怒りに連帯する！

朝鮮半島情勢が大きく平和の方向に向かっているにもかかわらず、岩国基地は強化され続けています。3月末、米軍厚木基地から空母艦載機約60機が移駐を完了したことによって戦闘機数にして約120機、岩国基地は東アジア最大の米軍基地となりました。

今や岩国基地は、米海兵隊基地であると同時に米海軍基地でもあります。通常は空母艦載機部隊が空母に乗り込めば静かな生活が戻ってくるはずですが、岩国では、従来から駐屯している海兵隊の戦闘機がすぐさま訓練を開始するため、一年中絶え間ない戦闘機爆音に苦しめられることとなります。ここに最新鋭ステルス戦闘機であるF35Bの今までとは質の違う爆音が加わって市民生活が破壊されています。さらに滑走路を空母甲板に見立てて行われ桁外れの爆音を生む着艦訓練を岩国で昼夜ともに行うという米軍マニュアルの存在まで明らかになっています。政府は「岩国では行わない」と言っていますが、米軍は事前の国や地元との約束を何一つ守っていません。お盆や正月には飛ばないという約束も、市街地上空を飛ばないという約束も守られていません。米軍が住民の生活や生命をまったく顧みず米軍の都合によって行動することは、今年5月に京丹後の米軍Xバンドレーダー基地で医療ヘリ問題をめぐって米軍がレーダーの停波を拒否したことや、全国知事会が日米地位協定の抜本的改定の要求、米軍を国内法で裁けという要求を打ち出したことを見ても明らかです。

ここ岩国でも多くの市民が「爆音はもうゴメンだ！」と声を上げ始めています。岩国市民は、国と県・市に対して「米軍機による爆音被害をなくすことを求める署名」を全国に広く呼び掛けており、全国で多くの団体個人がこの呼びかけに応えています。

9月30日の沖縄知事選では辺野古新基地建設反対の圧倒的な民意が示されました。ここ岩国では、

2016年1月、「岩国は自立できる！」「米軍基地に依存しない町作りを」「上関原発建設反対！」を掲げて闘った姫野あつこさんが、10月14日に行われた岩国市議選で、トップ当選を果たしました。岩国でも基地はいらないという民意は脈々と生きています。岩国基地はいらない！の声を全国に広げていきましょう。

日米軍事一体化を進めるイージスアショア配備を止めさせよう！ 朝鮮半島・中国・アジアへの侵略史の上に存在する岩国基地を撤去し、岩国から平和を創り出そう！

安倍政権は、昨年12月朝鮮半島戦争危機に乗じて自衛隊へのイージスアショア導入を決定し、秋田と山口を候補地としました。今年に入り平昌オリンピックを転機として南北・朝米首脳会談によって対話の道すじが見えてきたにもかかわらず配備計画は進められ、費用は膨らみイージスアショア二基の購入・維持費にミサイル費用まで含めれば総額6千億円を超す可能性もあります。6月には両県に一方向的に通知し6月から地元説明会が行われていますが、説明会とは名ばかりで、ミサイル基地が作られることに対する市民の不安や電磁波など健康問題への懸念に対しても防衛施設局は「答えられない」としつつ、ひたすら配備に向けた既成事実を積み上げようとしています。イージスアショアの自衛隊むつみ基地への配備は、岩国基地の強化と一体のものであり、日米の軍事一体化を一層進める危険なものとなります。9月20日、むつみ演習場の一部がある山口県阿武町の花田町長は、「居住地域に近接しており、自然や人を大事にしたまちづくりに逆行する」「町民の安心・安全を損なう」と述べ、計画反対を明言し、これに先立ち議会は全会一致で「配備計画の撤回を求める請願」を採択しました。地元の人々と連帯し、イージスアショア配備を必ず食い止めなくてはなりません。

いまや安倍政権は、朝鮮半島平和の流れに対する最大の妨害物として登場しています。安倍政権は朝鮮半島・中国・アジア人民との対立をあおり、差別排外主義的分断を進めようとしています。歴史を振り返れば、岩国米軍基地はもと日本海軍航空基地であり、江戸時代に干拓した優良農地を1938年に旧日本軍が天皇の名で二束三文で強制接収して建設した基地です。今、一軒8000万円の米軍住宅「アタゴヒルズ」が立ち並ぶ愛宕山の地下には、太平洋戦争末期に掘られたトンネル（戦闘機「紫電改（しでんかい）」を製造する地下工場）が存在しています。過酷な軍事基地建設には、植民地支配下で渡日したり強制連行された多くの朝鮮人労働者と家族が動員され犠牲になりました。さらに軍事都市広島に隣接する岩国は連続して空襲を受け、ポツダム宣言受諾の8月14日には岩国駅を中心にじゅうたん爆撃を受けました。8.6広島原爆投下で被爆した人々が再び岩国大空襲で2重の被害をこうむりました。500名以上の死者が出て岩国市街は穴だらけになりましたが、岩国基地は爆撃されずほぼ無傷で残されたといえます。私たちはこのような歴史をしっかりと踏まえ、差別分断支配と闘い、岩国からアジア民衆とともに生きる平和を創り出す闘いとして、岩国米軍基地撤去を闘いましょう。

辺野古土砂投入や原発再稼働、9条改悪など戦争政策を進める安倍政権を許すな！ 沖縄や全国の反基地闘争・反原発闘争・闘う労働運動がともに連帯し、安倍を倒そう！

翁長前知事の遺志を継いだ玉城デニー新知事の当選によってあれほど鮮明に沖縄の民意が示されたにもかかわらず、安倍政権は海上工事を再開させました。以降、決定的局面を迎える沖縄辺野古新基地建設阻止の闘いをはじめ、全国の軍事基地に反対する人々と連帯して岩国から基地を撤去する闘いを広げて行きましょう。また、THAAD撤去を求めて闘う韓国・ソソン里の住民をはじめアジア各地の民衆と連帯し、アジアからの米軍総撤収の実現に向けた共同の闘いを前進させましょう。

安倍政権下での戦争政策、軍備増強と日米軍事一体化のもとで米軍基地・自衛隊基地の事故が

相次ぎ、原発の再稼働・再々稼働が続き、闘う労働運動への大弾圧が続いています。これらと闘う全国的流れを岩国からも、それぞれの地元からも作って行きましょう。このような闘いこそが、今臨時国会での自衛隊明記など 4 項目の自民党改憲案提出=安倍政権による 9 条改憲の目論みを食い止める力になるのです。力を合わせて 2018 岩国行動を成功させ、かならず安倍政権を倒しましょう！